新運転東京

第71号
（通巻336号）
2017年12月25日

発行人
新産別運転者労働組合
東京地方本部
（略称・新運転東京）
編集兼発行人　川村　勝
〒110-0003
東京都台東区根岸
3-25-6
TEL03-5603-1300
FAX03-5603-5300

第62回定期大会開催！

供給体制の激変下に新役員スタート！！
労供事業拡充へ運動方針の全力展開を確認！

去る11月19日（日）午前10時、連合会館2階の大会議室、司会の佐々木副委員長が開会の挨拶を行って第62回定期大会が始まった。司会から議長の選出について、松島代議員（東）と根間代議員（タクシー）を推薦し、満場一致で確認した。続いて、大会書記に緒方執行委員（東）と山崎執行委員（南）、そして資格審査・議事運営委委員に尾崎（東）、石橋（北）、外山（西）、山室（南）、花見（タ）各代議員と、菅原執行委員（本部議運）の選任が承認された。最初に、今大会で勇退することになった草苅委員長から「本日は、日曜日にもかかわらず早朝から国会議員、区議会議員、連合東京、自運労の委員長など多くのご来賓に参加いただき心から感謝申し上げます。また、多くの代議員には第62回定期大会への参加ご苦労様です。我々の労供事業、それを取り巻く政治、経済情勢などどれを見ても多く困難が待ち受けている中で、今回の大会をもちまして役員体制の若返りを図るべく退任することになりました。新たな役員体制の下、来年度に向けて組合員の団結力を強めていただきたいと思います。代議員諸兄の積極的な議論を期待して開会の挨拶とします。」と発言された。

草苅委員長

今大会の特徴は、過去の大会では参加要請をしてこなかった国会議員が2名も来賓として出席したこと。お二人とも今回の衆議院選挙で旋風を巻き起こした立憲民主党の衆議院議員。名古屋の近藤昭一氏は、交運労協の交通運輸議員懇談会の会長の立場から日雇雇用保険問題で厚労省との交渉に立ち会った経験から、我々が長年培ってきた働き方を評価する一方で安倍政権の働き方改革への批判、そして我々の取り組みを今後も支えていくとの決意を述べられた。また、江戸川区の初鹿明博氏は、日頃のご協力に加えて今回の選挙戦でお世話になったお礼とこの一年間我々の労供事業にとって非常に悩ましいことが多かったと理解して厚生労働省との交渉にあたってきたが、厚生労働委員会の担当議員として行政の頑なな姿勢を正す政治の役目をしっかりと果たして行きたいと述べた。

近藤昭一衆院議員

初鹿明博衆院議員

杉浦連合事務局長

その後、連合東京の杉浦事務局長からは、10月18日の定期大会の報告と連合運動の継承発展、そして大胆な見直しなどに向けて今後2年間、120万人組織拡大を目指していることへの協力を要請された。

高橋東京交運議長

続いて、東京交運労協の高橋議長は、交通運輸労働者を取り巻く厳しい状況に対して、例年行ってきた政策制度要求を東京都へ提出し、11月7日に回答を得た上で、東京陸運支局へも要求書を提出してきた中で、要求の基本は安全安心をお客様に提供することをお互い確認し合い今後も宜しくと激励をいただいた。

根本委員長

そして、自運労東京の根本委員長からこの一年間労供労連東京として清掃・生コン業界との供給契約の改善に取り組んできた経過と日雇い雇用保険などの問題について厚労省交渉を重ねてきたが、認識を共有することの難しさを感じ、それだけに年齢を問わず、健康で体力がある組合員を組織していることから健康診断、健康管理の重要性を訴えた。

以上の組合関係に引続いて河野新宿区議会議員から新運転本部が新宿の高田馬場にあった頃からの長いお付き合いを踏まえて、清掃事問題で区議会議員の懇談会に参加した経緯と問題点に触れて、区議会レベルから国会の政治レベルへの取り組みと今後の予算編成時期において、新運転の働き方の改善に努力する旨の激励をいただいた。

河野・新宿区議

池尻・世田谷区議

次に、池尻世田谷区議会議員からは、この一年間清掃就労組合員のいわゆる三法適用問題に関する諸行動に参加してきたが、23区清掃事業に携わる組合員が3千人、傭上契約労働者の7割にも上るという実態に驚いたこと。自分自身、かつて新運転に在籍した時期があったが、皆さんのお陰で区議会議員になって4期16年になるので、これからも皆さんの労働の価値を高める方向で頑張っていくとの決意を語った。

高橋・板橋区議

そして、高橋板橋区議会議員からは、社民党の区議会議員として今回の衆議院選挙は、過去にない程忸怩たる思いを深めて戦ったこと。先日沖縄に行く機会があり、宜野湾市や普天間基地の現場に行き、安倍政権の主権を踏みにじる暴挙を実感してきたこと。やはり平和の大事さを基本として、安倍政権の憲法破壊、9条改憲に抗して共に闘っていきたいとの決意をいただいた。最後の連帯の挨拶は、長谷川足立区議会議員からということだったが、風邪のために声が出ないということで、浦田書記長がアピール文を代読して激励を受ける形となった。

長谷川・足立区議

以上、例年にない多くの来賓挨拶の後、激電・メッセージ47通の内、運輸労連東京からのメッセージが紹介された。更に、菅原資格審査、議事運営委員長から、代議員定数80名中78名が出席し、大会は成立と報告。続けて大会日程と動議提出についての提案が承認された。また、大会表彰は、556名の無事故、無違反優良組合員を代表して、10年表彰の北支部の八巻組合員に草苅委員長から表彰状が手渡された。

その後、浦田書記長から今年度の経過報告と会計報告、糸川会計監査の報告があり、若干の質疑応答を受けて承認された。そして、次年度に向けての運動方針の提案に対して、赤岩代議員から労働協約第1条と事故防に関する動議が出されたが、議事運営委員長から本大会以降の審議事項とする旨の発言があり、本人了承の上で採決せずに質疑応答に移った。続いて、太田代議員から人材育成、青年部、特対部、女性部の活動について方針案の補強意見があり、予算案も含めて全体の拍手で確認された。

そして、役員改選に移り、執行委員長に立候補していた太田代議員と橋上東支部組合員の決意表明を受け投票となり、結果は太田氏が67票、橋上氏が3票、棄権票で太田氏が当選となった。そして、支部選挙を含めて全役員の確認が早坂選挙管理委員長から提案があり、満場の拍手で承認された。新旧役員挨拶では、草苅前委員長から退任の挨拶があり、満場の拍手でここ4年間のご苦労を労った。

橋上組合員

太田代議員

引き続き大会決議案は浅野評議員、大会宣言を山本執行委員がそれぞれ読み上げて提案し、満場の拍手で確認、最後に太田新委員長の「今年の激変から来年はもっと厳しい状況になることが想定される中で、組合員一人ひとりの意思を生かして労供事業の拡充に向かっていこう！」との音頭で団結頑張うを三唱、終了した。

就任に当って
執行委員長　太田　武二

太田執行委員長

新運転結成58年目に図らずも今大会で東京地本の第9代目執行委員長に選任されました。

私は、新運転に加入した1980年から20年間、一般トラック、清掃、生コン、首都高などの多様な職種に就労しながら生まれ島沖縄の反基地・自立解放の闘いを中心に様々な平和人権闘争に参加することができました。まさに、ワークワイフバランスを実践できた新運転に感謝、感謝の日々を送っていたのです。

その後の14年間は、篠崎氏、北浦氏、宮田氏、草苅氏の各委員長の下で書記長を務めてきたのですが、その中で恩人だった北浦氏は10年前、篠崎氏は今年の1月に亡くなられたことに改めて深い悲しみと寂しさを感じています。

私はこの2年間、久しぶりに自由労働者として現場に戻り、清掃、ロマン交通、シャトルバスなどで働く傍ら、沖縄の辺野古、高江現地の座込み行動に参加してきたところです。

その一方で、一昨年の日雇い雇用保険の不正受給発覚から、労働組合の労供事業を無視・軽視から廃止へ導くかのような厚労省に対して、労供労連の役員として連合本部や国会議員に我々の労供事業の重要性を訴えてきましたが、残念ながら納得いく結果ではありませんでした。

それだけに今後2年間、組合の先頭に立って火中に栗を拾う覚悟で奮闘する決意を表明して就任挨拶とします。

二〇一七年十一月十九日
新運転東京第六十二回定期大会
役員一覧

執行委員長	太田　武二	（本部）
副執行委員長	佐々木克己	（タクシー部長）
〃	菅原　元	（東支部長）
書記長	川村　勝	（本部）
書記次長	椎葉　誠	（本部）
執行委員	鴨澤　城	（北支部長）
〃	浦田　司	（西支部長）
〃	樋口　浩	（南支部長）
〃	緒方　勝志	（東支部）
〃	青木　隆	（東支部）
〃	山本　高正	（東支部）
〃	赤川　彰三	（北支部）
〃	中野　篤志	（北支部）
〃	浅野　靖之	（北支部）
〃	近藤　政則	（西支部）
〃	林　秀雄	（西支部）
〃	倉本　広	（西支部）
〃	堀　正則	（南支部）
〃	山崎　芳徳	（南支部）
〃	佐藤　収	（タクシー部）
〃	堀江　奬	（タクシー部）
会計監査	石橋　吉治	（北支部）
〃	外山　ツヤ子	（西支部）

合計　二十三名

支部・タクシー部便り

■東支部

この支部だよりの書き出しが、いつもと同じになるかもしれませんが、気が付けば師走も押し迫り、もう年末年始の増車増員対策に頭を悩ませる今日この頃です。年を重ねるにしたがってかどうか、私は月日の過行く速さに圧し潰されそうになる時がありますが、皆さんはどうですかね。多くの組合員の皆さんは、「どうなっちゃったのか?」とこの一年を振り返っているかと思います。清掃に継続で就労してきた組合員は、日々の使用関係から一年の有期供給契約に基づく三法適用へ変えられ、生コン就労者についても「17日ルール」という訳の分からない働き方規制や三法適用問題にぶつかったりと、新運転の60年近い歴史の中でも大激変の年でした。

実は、昔のタクシー組合員の日々使用から一年の有期への切り替え時には、国会の労働委員会での追及や行政訴訟、マスコミ対策など組合挙げての大闘争だったとの先輩たちの話を聞くにつけ、今回はちょっとばかし物分かりが良すぎたと思うのは私一人ではないはずです。ともあれ、新たなステージに上らされた中で、地震の後の津波のように来年以降の影響が大いに懸念されるところです。

そうした状況を受けて開かれた第62回定期大会において、安倍政権の「国難突破選挙」に倣ったわけではありませんが、委員長選挙では当支部所属の太田元書記長と橋上組合員が立候補して選挙となり、太田氏が当選、私が副委員長、そして川村書記次長が書記長にそれぞれ選出されて新しい本部体制が決まりました。ということですが、我々の働き方の屋台骨は、現場における組合員皆さんの日々の安全運転・安全作業の積み重ねです。

新年も仕事始めから奮闘していただき、14日の支部総会と旗開きに結集して下さい。そして来る一年が皆さんと組合にとって飛躍の年となるよう頑張り合いを確認しあいましょう!

支部長　菅原　元

■西支部

今年も残すところ僅かになりました。この一年間は書記長職と支部長職を兼務してきましたが、先日の定期大会で今期は支部長として西支部に戻ることにしました。改めて今期も宜しくお願い致します。

さて、支部の報告になりますが、事故を起こした際の報告が翌日になったり、第三者から支部に連絡が来るなど、事故対応の順番がきちんと守られていません。

さらに、アルコール検査でかかるなど、気のゆるみもみられます。そういった意味では、大きな事故に繋がりかねませんので注意が必要です。

話は変わりますが、ここ数日間、アクセルとブレーキの踏み間違いの事故が相次いで報道されていますが、決して他人事ではありません。特に資源回収など、荷台に作業員が乗ったままその行為が行われたら話になりません。

また、冬休みに入ったこともあり、生活道路は普段の数倍危険が潜んでおります。改めて「だろう運転」をせず、「かもしれない運転」を心掛けましょう。

最後になりますが、年明けの支部旗開きは1月13日、17時から19時まで支部でおこなうことにしました。まだ決定ではありませんが、その際にマグロの解体ショーを検討しています。また、参加時間がない組合員のためにも持ち帰りが出来る様に準備もいたしますので、仕事帰りにでも遠慮なく支部にお立ち寄りください。

支部長　浦田　司

■南支部

年末を迎えていますが、この機関紙が読まれる頃を想定して、新年明けましておめでとうございます。

最近テレビの話題に「お笑い芸人の出川哲郎さんを見るとどんな嫌な事があっても吹き飛びますね。」と皆が言っています。「ヤバイよ、ヤバイよ」の決まり文句でザリガニの鋏で鼻を挟ませたり、言葉の通じない国で買い物をしたりするなど体当たりで笑いを届ける出川さん!今やバラエティ番組には欠かせない存在だ。かつては嫌われタレントと見られていた事もあったが最近は子供が尊敬する人物に名前が挙がっている。そんな彼を支えたモットーは、「一生懸命頑張っていれば誰かが見ていてくれる」私が思うに、その言葉通り、どんなに大変な仕事も真正面から取り組んできたと思う。どこかで必ず誰かが見ていてくれる。ささいな事の様だが人知れず仕事に奮闘する人を私は誇りに思う。

組合員の皆様も一生懸命、頑張っていきましょう。

尚、組合費が暫定的に一月の納入部分から一年間、千円の引き下げになります。

旗開きは一月十四日(日)午前十一時よりおこないますので支部の掲示板の確認をお願いします。今年も一年頑張りましょう。

支部長　樋口　浩

■北支部

師走に入り、寒さも一段と厳しさを増してきました。

体調管理に留意して年末年始の繁忙期を乗り切って頂きたいと思います。

さて、組合に目を向けますと11月19日の定期大会をもって草苅委員長が勇退となり、新委員長に元書記長の太田武二氏が就任し、書記長、書記次長も代わり二年間の本部体制が整い始動しています

この時期は1年を振り返らなくてはなりませんが、我々にとって明るい年とは言えませんでした。

去年の暮れから持ち上がった三保の問題、十月から付与された有給休暇の日数についても、労働基準法と本来の我々の働き方である雇用保険の手帳を持ち、日雇労働求職者給付金（あぶれ手当）を受けてきた我々に果たして画一的にさかのぼり適用が当てはまるのか明確な答が出せないのも事実です。また、最も大きな要因は管轄官庁が労働者供給事業について理解していない事です。このことは新運転の見ならず、労働組合の労働者供給事業の存続を脅かす恐れもあり、連合、交運労協、友誼団体などの力を借りながらこの流れを押し戻さないと、今後の組合の発展に?マーク付くものと危惧しています。

2年後には、新運転発足60年。この年を迎える頃には、すべての懸念事項が払拭され、皆さんと共に何らかの記念行事を行うことが出来れば幸いです。

支部長　鴨澤　城

■タクシー部

先の総選挙は事前の予想通り、自民党の大勝という結果で終わりました。一方の野党は、細胞分裂を繰り返したあげくに、上げ潮に乗っていた筈の「希望の党」の修復できない敵失により惨敗を喫してしまいました。

唯一「立憲民主党」がリベラル派の受け皿となり、野党第一党になれたのが救いでしたが、議席占有率が自公3分の2ということには変わりないので、我々は今まで通り厳しい目で監視していく必要があります。

それにしても、得票数の割合からしても、余りにも差がつきすぎてしまう小選挙区制の問題点が再度クローズアップされる中、二大政党制と緊張感のある国会運営を回復させるためには、選挙制度の抜本的見直しと改革が必要かと思われます。

ところで新運転東京地本も第62回定期大会が開催されました。事前の評議員会で選挙規程の一部が改正された関係で、新規程を早速利用された組合員もいたようです。一方支部の役員・評議員・統制委員・大会代議員選挙は全部門定数当選という前代未聞の結果でした。また大会選出役員選挙も執行委員長だけというこれまた珍しい結果でした。期待される新体制の本部組織が労供労組としての機能を十二分に発揮して貰うことを切に願いたいと思います。

さてタクシー業界も年末から来年に向けて、大きな動きがあるかもしれません。ご存知のように既に全タク連の活性化11策が初乗り距離短縮運賃を筆頭に実施に移されていますが、とても事業再構築の決定打とは言い難いと思われます。

問題の根幹は、乗務員の絶対数不足にあります。よくタクシー業界の損益分岐点は、事業者側では保有台数40台以上、稼働率は80％以上、営業収入一日5万円以上と言われています。一方運転者側では、乗務数12回（隔日勤務）、走行距離3百キロ以上、営業回数35回以上、爾後4百回以上で何とか生活出来る収入が確保できるところでしょうか。

しかしこれも今後運転者不足が蔓延することにより、大きく状況は変わりますので、注目しておきましょう。

タクシー部長　佐々木克己

労供労連東京の役員会開催！新役員分担を確認し活動強化へ！

去る12月12日、午後3時からタブレット根岸会館会議室に新運転・自運労・全運労の各役員が集まり、10日に大阪で開かれた労供労連中央執行委員会の諸議題を受けて東京段階での意思一致を図るべく会議が開かれた。

議事に入る前に、連合東京や東京交運労協に届ける労供労連東京の来季役員について以下のように決定した。議長は太田（新委）・清掃担当。議長代行は根本（自委）生コン担当。書記長には桑嶋（自書）。書記次長は川村（新書）。そして、連合東京は新運転、東京交運労協は自運労が従来通り担当することを確認した。

続いて議事に移り、労供労連執行委員会の開催について、必ず2回必要なのかとの意見が出たことと東京と関西圏との実態の違い、白手帳保持者の自主労供、労供事業への行政からの締め付け、将来的な労供の見通し、職安法の改正等様々な意見の交換が行われた。

とりわけ、厚生労働省の職安法改正に伴う公文書や労働組合の労供事業についての具体的な対応策についての違いが明らかになる中で、首都圏における独自な取り組み強化について議論となった。具体的には、法案を審議する厚生労働委員会での議論が実現できるよう野党だけでなく公明党も含めて我々の労供事業への理解を求めて行くこと。

将来的に行政は労供事業（日々使用・非正規）を無くしたい方針が見え隠れしきている中で、清掃・生コンに頼りすぎている現状から新たな仕事を開拓して行くとの認識を共有した。

最後に、年明け以降の連合、交運労協等の春闘集会での動員に対する各分会、各支部の人数割り当てを決定して終了した。

新年度日程

○旗開き
＊本部　1月12日
＊東支部　〃　14日
＊北支部　〃　13日
＊西支部　〃　13日
＊南支部　〃　14日
＊タクシー部　〃　14日

○第858回執行委員会
1月25日
午後0時半開会
第151回評議員会
同日
午後2時開会
会場　台東区民会館

○春季生活闘争
＊連合
2月5日　読売ホール
＊交運労協
3月8日　日比谷野音